

子どもに対する虐待は違法性が不明確であり、世界中にまん延している。虐待のトラウマは心身ともに不安定な状態を生み出し、未就学、傷害、性感染症、HIV／エイズ、望まない妊娠などの問題にもつながる。公にならないケースも多く、正確なデータ収集が困難。



### スラムの子どもたちへの虐待をなくすために

ニカラグアの子どもたちは、極めて過酷で危険な環境下にある。首都マナグアなどで行われた調査によると、12歳以下の35%が性的暴力の対象となり、しかもその70%が養育放棄に遭っているという。出生届すら出されていない子どもが約2万人いるというデータもあるほどだ。彼らは学校にも行けず、ストリートチルドレンの予備軍となっていく。

こうした子どもを脅かすリスクを取り除くため、JICAは2007年3月より、ニカラグア青



(上)プロジェクトが養成した地域のリーダーが、父母を対象に暴力や非行などの予防方法について講習を開く  
(下)プロジェクトでは子どもたちの健全な成長を促すため、絵画やスポーツなどを通じたレクリエーションにも力を入れる。自分でつくった作品をうれしそうに掲げるスラムの子どもたち

少年・子供・家族省とともに、マナグアのスラムで、暴力や犯罪、薬物中毒などの予防を目指し、「青少年とその家族のための市民安全ネットワーク強化プロジェクト」に取り組んでいる。

プロジェクトが何よりも重視しているのは、「地域の人々が主体となって現状を変えていく」ということ。そのために、まず地域のリーダーとなるべき人材を養成し、彼ら自身が保護者に呼び掛け、薬物や暴力、子育てなど、各家庭が直面する問題について学ぶ講習を開く。そして次に、講習に参加した保護者たち自身がその問題の解決に向けて何が必要か

を考え、学校の清掃をはじめとする社会活動などのアイデアを、計画・実施していくという仕組みだ。

さらに、保護者を対象にした手工芸品教室を開くなど生涯学習活動も実施。学んだことが収入に結び付けば貧困が緩和される。同時に、学習を通じて保護者が新しい視点を持ち、家庭内のコミュニケーションの在り方が変化すれば、子どもが置かれている環境が改善され、非行や犯罪の防止にもつながるからだ。

「子どもをめぐる暴力や非行、犯罪を未然に防ぐには、国として制度を確立することが重要であ

## 地域住民が一体となり 子どもたちを守る

全国で60万人もの子どもが暴力の危機に直面しているといわれるニカラグア。暴力による子どもへの虐待は、現在、深刻な社会問題となっている。

り、プロジェクトの最終目標にも定めています。今では、スラムに住む多くの人々が活動に参加してくれるようになり、予防活動に対する意識も高まっています」とJICA専門家の佐藤真江（なつえ）さんは話す。

そして08年11月、佐藤さんにうれしい知らせが。地域住民が一体となって進めてきたこの活動が「社会リスク予防活動ガイドライン」としてニカラグア政府により正式に制度化されたのだ。地域で子どもを守るという地道な取り組みが今、彼らを虐待の危機から救おうとしている。

